

令和2年度 第1回奈良市における中高一貫教育に係る懇話会の意見の概要	
開催日時	令和2年 8月20日(木) 午前10時から12時まで
開催場所	奈良市役所 中央棟 地下会議室
議題 又は 案件	1 座長の選出 2 (仮称)奈良市立一条高等学校附属中学校の学校ビジョン、教育の目的、6年一貫の特色ある教育活動等について 3 (仮称)奈良市立一条高等学校附属中学校から高校への接続方法について 4 その他
参加者	出席者4人 (重松敬一、岡本充智、越野泰徳、藤原素子) 事務局 9人
開催形態	公開 (傍聴人 0人)
担当課	教育部 教育政策課
<b>意見等の内容の取り纏め</b>	
<p><b>1 座長の選出</b> 出席者の互選により、座長に重松敬一氏が選出された。</p> <p><b>2 (仮称)奈良市立一条高等学校附属中学校の学校ビジョン、教育の目的、6年一貫の特色ある教育活動等について</b> 事務局より、(仮称)奈良市立一条高等学校附属中学校の学校ビジョン、教育の目的、6年一貫の特色ある教育活動等について説明。 出席者から以下のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ビジョンについては、中・高のビジョン、内進生と外進生のビジョンを合わせておくことは非常に大切。</li> <li>・目指す生徒像の、本物に触れとことん探究する生徒は、これからの時代に大切なことだと思う。</li> <li>・大学生を見ていると、自分の学びが将来どうつながるのか結びつきが弱いと感じる。基礎基本的な科目や、Arts STEM を通して、最終的に自分の将来を具体的に見えるような教育ができればいいのではないかな。</li> <li>・オンラインについては積極的に使用してほしい。どこでも世界と繋がることと、本物に触れるという意味でのフィールド活動も併せていければよい。</li> <li>・目指す生徒像の一方で目指す教員像も必要なのではないか。附属中学校がこういう教員像を目指していると、ビジョンで示すことができれば、自分もそこで教員になりたいという志のある人が集まってくるのではないかな。そういう人たちが集まってきて本当に目指す教育ができるのではないかな。</li> <li>・奈良市を活性化させるようなアイデアを、生徒が市に提案するような活動もできるのではないかな。そのことで、奈良市の行政に携わりたいと考える生徒も出てくるだろう。そういった意味で市立において高等学校をもつという意義が出てくると思う。</li> </ul>	

- ・市立の良さを生かし、中学校の生徒に寄り添いながら、しっかりと力を伸ばしてほしい。また、高等学校に接続するので、高等学校の活性化になるような仕組みを考えてほしい。外進生と混ぜずにする良さもあるが、それだと高校の活性化に繋がりにくい。内進生のためのクラス編成の良さを残しつつ、高等学校全体にも波及するようにしてほしい。

### 3 (仮称) 奈良市立一条高等学校附属中学校から高校への接続方法について

事務局より、(仮称) 奈良市立一条高等学校附属中学校から高校への接続方法について・説明。

出席者から以下のような意見があった。

- ・内進生のための学級は、6年一貫の計画(授業以外にも海外留学や体験的な学び)を立てやすい。外進生と同じにすると、一貫の特色も薄まってしまう。
- ・併設型中学校の授業を見てきたが、進度が全く違ってくる。国、数、英はもちろんだが、社会や理科はほぼ身につけてしまっている。中学1, 2年の段階で高校の世界史、日本史が分かってしまう子もいる。もう一度高校で同じ事をするというのは、なかなかしづらい。教科の選択授業や学校行事等で、内進生と外進生がお互いに刺激し合うことができる環境を作っていくことが良いと思う。
- ・内進生のためのクラス編成が良いと思う。高校での選択科目で外進生と一緒にできるものもある。
- ・一条高校の変革に繋げることも考えると、中高一貫の生徒と高校からの生徒を混ぜる方が良いと思う。
- ・内進生が外進生の進度に合わしに行くのではなく、高校から入ってきた生徒が内進生の姿をみて、高校生が内進生の進度や探究の姿に追いついていく。そこが高校の活性化のエネルギーにできるのではないか。
- ・2クラスの内1クラスを一貫コース、1クラスを高校進学時の段階で混成させる。というのも一つの選択である。しかし、そうすると学校の中に複数の学校があるようになってしまう。

### 4 その他

その他として出席者から以下の意見が出た。

- ・一番良いと思ったのはTT(ティームティーチング)である。過去の事例として、授業は中学校40人のまま、TTを全ての教科でおこなった。また、高校生が中学生の自学自習の時間に教える仕組みを作った。異年齢の交流ができ、すごくプラスになっている。
- ・探究活動の発表は、高校生が中学生の発表を見ることで凄く刺激になっている。
- ・南陽高校では、ほとんどの高校教員が中学校へ教えに行っている。国語と外国語については、TTは二人とも高校の教員が入っている。高校の教員は中学校をもっと、もっと良かったと言っている。市立で人事異動がない中で、新たな風を吹かすためにはそういった体験は教員に必要なと思う。
- ・附属中学校で取り組んでいることを、情報を公開していくことで市内の公立中学にも刺激を与え、一条高校へ行きたいという子も出てくると思う。
- ・市内に幾つかモデル中学を設けて、そこでの交流をしていくこともできるのでは。